

企画展「道東考古－縄文の世界－」をふりかえって

澤田 恭平*

はじめに

2025 (令和7) 年3月22日から6月29日にかけて、企画展「道東考古－縄文の世界－」を開催しました。考古・縄文に関する展示については、3年前に北海道縄文世界遺産推進室との共催で開催した「北の縄文展 2022 in 釧路」以来のことでしたが、展示内容から資料の借用・設営に至るまでを主担当となって企画展を行うことは、十余年の釧路市立博物館職員人生の中で初めてのことでした。

展示開催直前の3月、釧路は近年稀にみる猛吹雪に見舞われました。休館日に展示の準備のためひとり出勤して準備を進めていたところ、裏の職員玄関が吹き溜まりのため開かなくなり、慌てて裏のシャッターを開け、雪まみれになりながら、回り込んで玄関の雪かきをして事なきを得たこともありました。そんなドタバタの状況の中、釧路を中心として、東は根室市・斜里町、西は帯広市の資料が大集合した「縄文」展示の開催となりました。

企画展「道東考古－縄文の世界－」

展示や解説冊子に用いた資料の撮影については、東京文化財研究所で幅広く文化財の光学調査に携わっている城野誠治さんの協力により進められました。企画展では、縄文土器に焦点を当て、旧石器時代や北海道最古の縄文土器である帯広市大正3遺跡出土の土器、各時期の特徴的な土器を釧路湿原の移り変わりとともに紹介し、縄文人たちが手がけた土器や石器、釣り針やぬい針といった道具の展示、貝塚から出土した動物(主に海獣類)骨のDNA分析等から分かった知見、縄文土器の制作技法研究にかかる成果速報等も盛り込みました。

企画展「道東考古－縄文の世界－」展示資料が出土した遺跡

市町村名	遺跡名	主な時期	市町村名	遺跡名	主な時期	市町村名	遺跡名	主な時期
釧路市	貝塚1丁目遺跡	旧石器	鶴居村	下幌呂1遺跡	早・後期	幕別町	札内N遺跡	中・晚期
釧路市	沼尻遺跡	早期	厚岸町	大別貝塚	晚期	芽室町	小林遺跡	前期
釧路市	材木町5遺跡	早期	厚岸町	下田ノ沢遺跡	続縄文	音更町	駒場遺跡	後期
釧路市	東釧路貝塚	早～前期	弟子屈町	弟子屈小学校遺跡	中～後期	音更町	相生1遺跡	晚期
釧路市	武佐川1遺跡	中期	浦幌町	共栄B遺跡	早期	根室市	トーサムボロ湖周辺堅穴群	前期
釧路市	大楽毛1遺跡	後期	浦幌町	平和遺跡	早期	根室市	穂香堅穴群	中・後期
釧路市	緑ヶ岡遺跡	晚期	浦幌町	十勝太若月遺跡	後・晚期	根室市	別当賀一番沢遺跡	後・晚期
釧路市	幣舞遺跡	晚期	帯広市	大正3遺跡	草創期	根室市	初田牛20遺跡	後期
釧路町	天寧1遺跡	晚期	帯広市	暁遺跡	早期	根室市	ベニケムイ遺跡	晚期
標茶町	二ツ山遺跡第3地点	早期	帯広市	大正7遺跡	早期	斜里町	朱門周堤墓	後期
標茶町	金子遺跡	早期	帯広市	稲田1遺跡	早期	斜里町	ピラガ丘遺跡	晚期
標茶町	ウライヤ遺跡越善地点	前～中期	帯広市	大正8遺跡	早・前期	斜里町	ボンシュマトカリベツ9遺跡	晚期
標茶町	マサコヤノシマ遺跡	後期	幕別町	日新F遺跡	中期			

* 釧路市立博物館

広域的に資料を借りて展示を行う場合、担当者は、資料の類似性や差異性などから、例えば「同じような文様が描かれる〇〇市の遺跡から出土した土器と××町の遺跡から出土した土器を隣に並べて置いてみたい」というように展示を展開していきます。今回の展示でも、道東からみつまっている縄文晩期の亀ヶ岡式土器を同じ展示ケース内にまとめてみたり、釧路町と市内幣舞遺跡から出土した東北弥生文化の土器などを並べて置いてみたり、縄文中～後期にかけて、広く道内で出土する北筒式土器と呼ばれる筒形の土器を、来場者にできるだけ近づいてじっくり見てもらえるように展示しました。特に道東の土偶が大集合(そもそも出土数が少ないですが)したのは、釧路では初のことでした。



各地の縄文土器をより身近で

関連行事

企画展に関連して体験講座や講演会、展示解説、サテライト展なども行いました。



石器づくり体験のようす

■縄文人体験！「数千年前の万能ツール！？黒曜石の石器づくり」

標茶町博物館の坪岡始さんを講師として招き、実際の黒曜石を割り、石器づくりを行いました。定員10名という限られた人数ではありましたが、体験を通して石器づくりの難しさや、縄文人たちの技術の高さを感じてもらいました。あと少しで完成する、といった時に、ちょっとした力の加減で失敗してしまい、落胆の声をあげる参加者もありました。

■友の会講演会「古代のDNAを解読するーネアンデルタール人から縄文時代のイルカまでー」

東釧路貝塚などから出土したイルカ骨の古代DNA解析を行っている日本大学教授の岸田拓士さんを講師に招き、2025（令和7）年1月に英国王立協会発行の Biology Letters に掲載された論文を中心について講演いただきました。ここでは、縄文時代の貝塚から出土したイルカ類について、DNA解析から種の同定を行い、同じイルカ種でも、縄文時代の時期によってグループの入れ替わりが起きていた可能性を示しました。この研究は縄文時代における釧路の海の様子を解明する上で、今後も注目されます。

■講演会「知られざる？縄文の世界あれやこれ」

帯広百年記念館学芸員の森久大さん、共催する縄文世界遺産推進室の村本周三さんを講師に招き、ともに縄文に関する講演を行い、44名の参加者が釧路では聞けない十勝の考古学や世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡」について、熱心に聞いていました。森さんの十勝の遺跡の成り立ちや、村本さんの話題の豊富さに感動し、私にとっても知見を深めた講演となりました。

■サテライト展「縄文時代のあの頃ー国史跡東釧路貝塚ー」

国史跡東釧路貝塚を近くに感じることができる釧路貝塚郵便局にて、サテライト展を開催しました。古くから発掘調査が行われている東釧路貝塚から出土した貝殻や土器などを、地域密着な存在である郵便局で展示することで、遺跡を軸にした地域での話題や交流を目指しました。写真で残されている昭和の頃の発掘調査の風景も展示し、郵便局

を訪れた市民の方からは「私が小さいころにここ（東釧路貝塚）の発掘調査の見学にいったんだよ」といった当時の風景を懐かしむ声も聞くことができました。また、期を同じくして、東釧路貝塚をモチーフにした風景印（10ページ参照）も作成するという貴重な経験もさせていただきました。

東釧路貝塚の風景印は、釧路貝塚郵便局で展示後も引き続き押印できます。考古や縄文が好きな方に、ぜひこの風景印で手紙を出してみたいはいかがでしょうか。



展示をはさんで筒淵芳郁局長と

展示をふりかえって

期間中、来場者の方から「縄文土器への愛が伝わってきた」「本当に縄文土器が大好きなんですね」といった嬉しいご意見をたくさん頂戴しました。また「何時間でも見ていられる」といってほぼ一日、展示室で熱心に土器の写真を撮られている方、地元の土器を見るために十勝方面から見に来てくださった方、東京から企画展を見るために釧路へ来てくださった方、ご家族総出で見に来てられた同業者、開催とほぼ同時にサプライズでお祝いに来てくださった釧路考古学研究会の皆様等々…初めてづくしだった縄文展、まだまだ語り尽くせないことばかりですが、今回の展示を通して、実に多くの人とつながり、学ぶ機会を得ることができました。その中で、道東・釧路がもつ「縄文」の奥深さと魅力を改めて知ることができました。

ここ数年、小学5・6年生を対象に、博物館や北斗遺跡で解説をする際、歴史が好きですか？と聞くと、勢いよく手を挙げてくれる子が増えてきています。また、社会の授業で歴史を学んでいない中・高学年から「縄文」や「旧石器」といった考古フレーズが飛び出すことがあり、感心するとともに、とてもうれしい気持ちになります。見学にくる小学生の中には「考古展みてきたよ」と言ってくれる生徒もいます。今後とも歴史・考古の魅力を伝えるべく、まい進してこうと思います。